

を出す所十府といふ、陸奥にあり、八雲御抄に、みちのくに限らず、但馬なるとふのすがごもともよめりと宣へり、又ふは經スルの義なるべし、

〔袖中抄 十四〕とふのすがごも

みちのくのとふのすがごもな、ふにはきみをしなしてみふにわれねん

顯昭云、とふのすがごもとは、あみを十してあみたる也、すがごもとは、菅にてあみたることも也、すががさ、すがみのすがまくら、すがわらだなど云がごとし、薦は大様は菰蔀にてあみたれば、本の名にしたがひて、ごもとはいへど、藁であみたるをば、わらごもといひ、菅にてあみたるをば、すがごもといふ也、とふあらんことはひろからん料也、されば綺語抄には、とふとは、とふあみたるをいふといへり、又みちのくとつゞくるは、此ひろきことの奥州にあるなめり、これは人をおもふ心にて、七ふには君をねさせ、みふにはわれねんとよめる也、それを童蒙抄、綺語抄などに、みちのくに、とふの郡より、とふあみたるものいでくるよしいへる心えられず、奥州の郡の中に、またくとふの郡なし、又とふあみたらば、さて侍なんとふのこほりより、とふあみたることもいでくといふこと、げにときこえず、又とふのこほりと云所におふるもの、とふしあるといへるもいはれず、ごものふしいかゝとふしあるべき、たゞとふあみたるこそいはれたれ、又とふしあるすげとこそいふべけれ、ごもといふいはれず、このとふのこほりのとふあめるごもの義、きはめて手づ、なり、又とふあまんことは、外にもありなんと、いふ難はいはれず、なにごともやすきことなれど、國々にこのむことかはりたれば、みちのくに、とふのすがごもをこのむにこそ、又あながちにこのまねど、さやうによみいでたる歌あれば、やがてそれをみちのくにのとふのすがごもとよむなり、

〔奥羽觀蹟聞老志 三 庶工土産〕按國中素無十符郡者也、自古所稱十符池者、今宮城郡今市河北有古館